

令和元年度 モニタリング結果及び水質浄化対策の総括と今後の方針

項目		今年度の結果	今後の方針
ダイオキシン類 モニタリング結果	底質	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度を実施した上池、下池の2地点とも環境基準値を満足した。 ・下池の主成分構成に変化が見られたが、ばらつきの範囲内と考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査頻度等は現行から変更せず、モニタリングを継続する。 ・下池の主成分構成については今後の傾向に注視していく。
	水質	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は4工区③、七曲川②、巴川②の3地点において環境基準値を超過した。 ・平成25年度以降、同程度の値で推移しており、改善の傾向は見られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調査頻度等は現行から変更せず、モニタリングを継続する。
水質浄化対策	排水フィルター (短期対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のところ、水質モニタリング結果には効果が表れていない。 ・フィルター材の竹炭について吸着性能試験を実施したが、SSの吸着能力が低い結果となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・効果が望めない状態のままでの設置は治水上の観点からは望ましくないため、撤去についての検討を行う。
	植生復元 (長期対策)	<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度から実施しているヨシ移植の効果もあり、植生面積の増加が見られる。 ・今年度は遊水地への適応性を踏まえ、対象種をマコモとして移植を実施した。 ・現在までは水質モニタリング結果には効果が表れていない。効果発現までは時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・植生は着実に増加しているため、今後も植生復元を継続する。 ・次年度は、流出水への効果を期待して流出口付近へヨシの移植を行う。 ・植生面積及び繁茂状況の把握方法として、ドローンを用いた方法の導入を検討する。